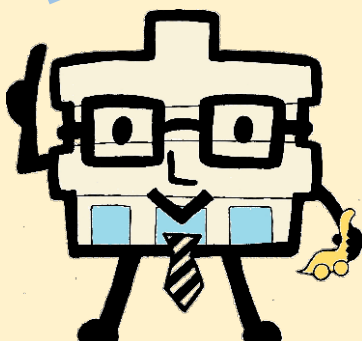


大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32
TEL：03-3925-6166 FAX：03-3925-6169 ホームページ <http://www.asahide.or.jp/>



急に寒くなってきたので
体調に気をつけましょう



国連障害者権利委員会の総括所見と 特別支援教育／脱施設への勧告

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

障害者権利委員会の総括所見とは

2006(平成18)年に、障害者差別をなくし、障害者の人権や自由を守るための「障害者権利条約」が国連で採択されました。日本もこの条約の締約国です。

条約に基づく国連の障害者権利委員会による日本の取り組みに対する初めての審査が昨年8月に行われ、その翌月(9月9日)に審査結果をまとめた総括所見・改善勧告が公表されました。この審査は締約国のすべてに対して定められた手続きで定期的に行われるもので、その審査結果が総括所見であり、改善勧告です。

日本に対する改善勧告では、障害のある人の強制入院の廃止や入所施設の廃止、福祉的就労に関する否定的見解などのほかに、インクルーシブ教育に関して、分離された特別支援教育の中止が求められたということが報道され、特別支援教育の中止勧告に対しては、永岡桂子文部科学大臣(当時)はいち早く会見で、「多様な学びの場において行われている特別支援教育の中止は考えていない」との考えを表明しました。

勧告は真摯に受け止め、日本流の今後に向けた確かな対応をどう示すかがきわめて大切なことだと思います。

特別支援教育を受ける子供の数は年々増加傾向にあり、昨年の文部科学省の調査では、小中学校の通常学級に通う児童生徒の8・8%に「発達障害」の可能性があるとすることです。通常学級か特別支援学級かの就学先の選択について文部科学省は、「本人や保護者の意向を最大限尊重」としていますが、実際のな就学先の決定にはいろいろ問題があるのは確かだと思います。

障害(者)観も大きく変化してきた今、教育とは何のため、誰のためかを人権や福祉の視点で改めて考えてみるべきであり、現行の教育法制度を見直し、学習指導要

領の在り方等も見直し、学校だけが教育の場ではないという考え方も大切だと思います。

特別支援教育の中止勧告について

戦後から現在に至る日本の教育制度は今、新たな分岐点に差し掛かっているように思います。なぜなら日本の公教育制度は明治新政府によって、国家の発展には、国民一般の教育の振興が重要だとして小学校の普及充実に目的を始まったもので、この小学校については男女とも必ず卒業すべきものと定められました。しかし障害児の就学に関する具体的な定めはなく、当時の小学校には進級試験があり、そのため学校教育の普及と就学率の向上につれ、そうした教育法制度の流れには乗れない児童生徒が出てきたために考えられた学級の編成や学校が、戦後の新しい義務教育制度の下で、特別支援学級、特別支援学校となつて現在に至っているからです。

しかも障害児のための養護学校(現在の特別支援学校)の義務制はすぐに始まったわけではなく、戦後の教育制度発足から32年目の1979(昭和54)年からであり、それは多様な障害の内容に配慮した教育というよりも、障害のない児童生徒のために考えられた教育法制度の下で進展してきたことを意味します。そうしたなかで次第に障害児への理解も進み、そのための取り組みが行われるようになり、現在に至るわけですが、その一方で、障害のない児童生徒の教育が本流の教育で、障害児教育はそれに「準ずる教育」(学校教育法第72条)とされたままできたことで、ノーマライゼーションの理念やインクルーシブ教育の理念を日本流の考えとして消化しきれずに混乱を招いているようなところがあるからです。ノーマライゼーション理念もインクルーシブ教育も、人の多様性やその教育の多様性を否定するものではないはずですが、したがって学校教育法第72条の「準ずる教育」を「適切な教育」に改め、「特別支援学校は、児童生徒の障害の内容及びその程度や状態に配慮した最も適切な教育を施す」とすれば、障害の多様性に配慮し、教育の内容や方法についての発想や工夫が広がる教育制度の実現につながるのではないのでしょうか。

脱施設化に向けた勧告について

ノーマライゼーション理念の広がりに伴い、北欧諸国やアメリカでは施設の縮小や解体へと進みますが、日本では逆に施設中心の施策が進められ、1970年代はその勢いが増しますが、1981(昭和56)年の「国際障害者年」を契機に、ノーマライゼーションは世界規模で障害(者)観に大きな影響を与え、日本でも脱施設への方向が示され、今、地域移行と称する取り組みが促されています。しかし現状は問題や課題も多く、入所施設に代わるグループホームの制度も確かな制度とはいえない不十分なものだと思います。

ノーマライゼーション理念のそもそものは非人間的な施設政策の改革にあつたわけですが、それはいわば知的障害者を排斥する社会的な発想による取り組みのすべてを施設内だけで完結しようとするものだったために隔離隔絶による人間性軽視に陥つたことの反省であり、それがやがて脱施設化政策へと転ずることになったという理解が大切です。これとは対照的に、日本の施設の取り組みは、歴史的に見れば、社会的な隔離隔絶的なものというよりも、きわめて人道的で、社会の厳しい状況から保護するだけでなく、生活能力を高めるための教育的な取り組みでもあつたわけです。そうした取り組みが受け継がれて現在に至っているといつてよいと思います。特に知的障害の場合、施設が、権利擁護や日常生活や活動の質的充実を図る拠点として機能するのであれば、そうした施設の在り方は現在の日本ではむしろ必要であり、障害者施設は重要な社会資源の一つとされるべきものだと考えます。

施設を問題視するとすれば、その施設がなぜ必要か、そこで何がどのように行われるか、地域社会にとつてどうなのかということだと思います。地域社会のなかの施設であり、施設のための地域社会と考えれば、「施設から地域へ」でも、「地域から施設へ」でもよいわけで、そこにはおのずと「共生社会」のための合理的配慮が伴うはずであると思います。

(日本の教育と福祉を考える www.asai-hiroshi.jp)

救命講習会

7月11日(火)に普通救命講習会を行いました。

講習は座学の部分を各自ウェブ上で行い、実践については福祉園に来て頂き行いました。終了後に、講習救命技能認定証が交付され、3年の有効期間があります。3年後に再講習で更に3年延長されます。期限が3年か：とも思われませんが、3年経つと救命の方法が変わっていたり、忘れてしまっていたりする事もあり、講習を受ける事の大切さを再確認できました。

基本的な救命方法

- ① 呼びかける(反応なし)
119番やAEDの依頼をする。
- ② 普段通りの呼吸があるか確認する。
- ③ 胸骨圧迫123：30
- ④ 人工呼吸(感染症の疑いがある時にはしなくて良い)
- ⑤ AEDを装着し指示通り行う。
- ⑥ 救急車が来るまで③④⑤を繰り返す。



研修会



年間を通していくつか研修を受けています。夏季休暇前には『BCP(事業継続計画)について』、『吸引機の使い方』、『感染症について』等々：。

今年には職員からマカトン講座を受けたいとの声から福祉園の生活で使いそうな語句を中心にマカトンの講習を行いました。旭出学園(特別支援学校)に併設されている旭出教育研究所から講師を招いて、7月3日に行われました。研究所では、英国で言語コミュニケーションの指導法として考案されたマカトン法の普及を進めています。マカトンを学ぶ事も出来ますし、お子様の相談も出来る所です。

旭出学園(特別支援学校)の卒業生も福祉園に在籍しており、皆さんにとってコミュニケーションの一つとしても重要になっていくと実感していました。私自身すっかり教わった事は無く、教わりたいと思っていた一人でした。数単語教わる研修会でしたが、活動場に戻ってすぐに実践できるものも多くとても勉強になりました。言葉や身振り、サインにシンボル等を組み合わせ、同時にゆっくりと相手を見て行う事が大事という事を言われていて、自身の行動改めながら実践している所です。皆さんの言いたい事等の表現に繋がるよう活用していきたいと思いました。

(石川)



青葉のつどい



配信で式典に参加しました。

5月19日(金)に青葉のつどいが行なわれました。当日は雨天の為、各グループw e b配信で式典をみました。

配信での式典にも慣れてきて、皆さん嬉しそうに画面を見ていました。

今年度は「あおば音頭」も踊りました。あおば音頭は事前に練習も行なっていたので、当日は楽しく踊る事ができました。

式典後のお楽しみは、調理が作ってくれた特製の昼食です。味もボリュームもバツチリ!でお腹いっぱいになりました。

昼食後は、各科に分かれての活動でした。物づくりの工作や塗り絵、ゲームに記念撮影!!それぞれ楽しい時間を過ごしました。(永濱)



あさひでがくえんさんと、ハイチーズ!!



🍱 特製の昼食 🍱



素敵な作品ができました♪



三木先生の人形を作りました!!

クラブ活動、再開!

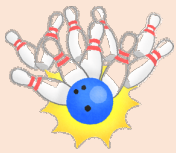
コロナウイルスが五類に移行したこともあり、中止されていたクラブ活動を再開しました。

まだまだ感染対策は続けていきますが、感染拡大に気を付けつつ、皆さんにとって楽しい時間になるように工夫して実施しています。

今年度は、運動、散歩、音楽、お楽しみ、の四種類のクラブを行なっています。運動クラブは学校の体育館やグラウンド、雨天の場合は室内で行なえる運動をしています。

散歩クラブは近隣を散策します。暑さが厳しい場合や天候が悪いときは室内でゲーム等を行ないます。

音楽クラブは、季節の歌を楽しんだり、曲に合わせて体を動かしたりしています。お楽しみクラブは、塗り絵や工作などを行なっています。皆さん、楽しそうに活動に参加されています。



(永濱)



音楽に合わせて踊りましょう



ポッチャで対決!!

リズムに合わせて~



音楽クラブ

相手のボールをうまく狙って



運動クラブ



ぬい絵や工作を楽しみます



夏は屋内でボーリング

きれいにできるかな?



お楽しみクラブ

目指せストライク!!



散歩クラブ

コロナウイルス感染症

入所部では7月の末から8月にかけてコロナウイルスの感染がじわじわと広まってしまい、合計で20名の方が感染してしまいました。

前回のクラスター発生時は一度に大勢の感染者が出てしまったのに対し、今回は感染しないように気をつけていく中で、どうしても接触があった方に少しづつ広まって行ってしまったように思います。

症状としては重症の方はおらず、最初に熱が出て、あとはのどの痛みや咳が続いていくといった様子でした。

今回、感染のピークがちょうど夏期休暇と重なってしまったことで、せっかくのお休みをつらい状況で過ごすことになってしまいました。

8月28日に最後の静養者の療養が明け、無事に終息となりました。

これからも感染症対策を徹底し、感染予防に努めてまいります。



(室野井)

納涼会

今年度の納涼会は8月27日に行う予定でしたが、入所内で新型コロナウイルス感染症が流行してしまいました。そのため今回は規模を縮小し、皆で集まらない形で行いました。例年では一堂に会して盆踊り、模擬店、カラオケ等を楽しんでいます。

夏の一大イベントのため、みなさん楽しみにされていたので心苦しい判断となりました。

当日は食事の際にお囃子を流したり、感染対策を十分した上で、少人数で風鈴づくりを行いました。「かわいい!」「素敵に出来たよ!」など楽しんでくれた様子でした。限られた活動にはなりましたが、少しでもお祭り気分を味わえたのではないのでしょうか。

来年度は皆さん揃って納涼会を楽しめる事を祈っています。



(佐藤)

入所棟改装

入所棟ホールのテーブルを、折り畳みができるカウンター形式にしました。

使用しない際には折りたたんで、スペースを広く使えるようになりました。

食堂への行き来やおやつの際に混み合ってしまうのが解消されました。

また椅子もひじ掛けがついたものになりました。バランスを崩して落ちたものになり、心配がなくなり、より安全に生活ができるようになりました。



(落合)

あさひであそび市

5月29日(土)の1週間、福祉園園庭で『あさひであそび市』を行いました。雨で中止の日もありましたが、久々の製品販売で買物の方ももちろん、当番に入ってくれた方は「いらっしやいませ」と元気の掛け声で張り切って行ってくれました。地域の方ものぼりや看板を見て入ってきてくださる方もいて、どの時間も賑わっていました。楽しかったとの感想も多かったのですが、定期的に開催できればいいな、と思っています！

(石川)



調理の取り組み

福祉園の食事全般は調理部が担っています。生活の基盤として欠かせない食事です。今回はそんな調理の取り組みを紹介します。

★リクエストメニュー

今年度より、グループごとで食べたい料理を調理にリクエストして作ってもらうというリクエストメニューができました。

7月はけんざいからのリクエストでラーメンが、9月は紙工からのリクエストでハンバーガーが出ました。これからもグループごとに順番でリクエストの機会がまわっていきます。

みんな何のリクエストするか考えるのも楽しい時間になっているとことです。

ラーメン



ハンバーガー



★特別メニュー

入所式や青葉のつどい、勤労感謝祭などの園の行事や、正月、節分、七夕、ハロウィンなどの季節のイベントの際には、特別メニューを提供しています。季節に合わせた彩り豊かな献立となっています。

ハムステーキ



セタメニュー



記事担当者より

こういった機会ではどうしても特別なメニューを紹介しがちですが、普段の食事も栄養のバランスがとれていて、とてもおいしいです。

毎食の献立を考えること、年齢差や食形態、個人の嗜好などに対応すること、とても大変なことだと思えます。いつもありがとうございます。

(落合)

後援会ご寄付ご芳名一覧(順不同)

令和五年四月～令和五年九月末まで

(Faded list of names and amounts)

『みなさまからのご支援ご協力に

厚く御礼申し上げます』



大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



◇新職員紹介

佐藤 雄一さん(入所部) 10月から入所部で働きはじめました佐藤です。利用者の方の生活向上のためにがんばっていききたいと思えます。よろしく申し上げます。

◇年間行事予定(10月～3月)

- 10月11日 地震防災訓練
11月23日 勤労感謝祭
12月14日、15日 クリスマスフェア
29日～1月3日 一時休業
1月12日 保護者会
2月10日 保護者会
3月22日 保護者会

◇編集後記

私は散歩をしながら考え事をすることが多いです。10月に入り涼しくなったので気軽に散歩に行けるようになりました。この前の休みは編集後記の内容を考えるとというテーマで散歩をしていました。その結果考え事をするには散歩がいいということを書いてしまおうという結論になりました。散歩をすると心身ともにリフレッシュできるうえに悩み事まで解決できてしまうので個人的にとってもおすすすめです。

(落合)